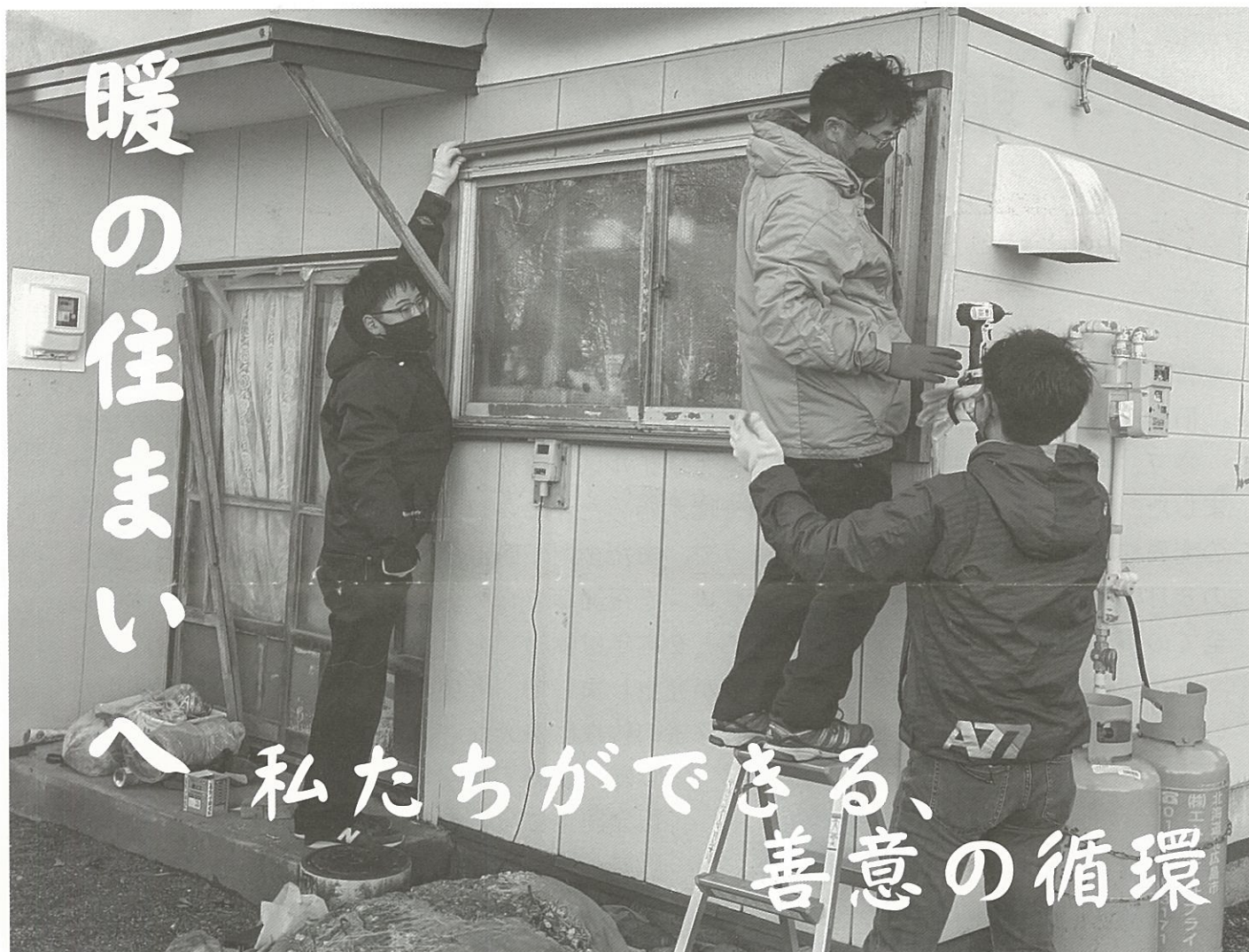




暖の住まいへ

私たちができる、善意の循環

2022年



あつま



号

社協だより

発行者

社会福祉法人 厚真町社会福祉協議会

〒059-1601 勇払郡厚真町京町 158 番地

TEL (0145) 26-7501 FAX (0145) 26-7655



この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。

年頭によせて

社会福祉法人 厚真町社会福祉協議会
会長 大橋 正治



皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

旧年中は当会の事業に対し、町民の皆様のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年は、一昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響に振り回された一年でありました。昨年の暮れごろから日本全国で増え始めたオミクロン株による感染者は、これまでの変異株とは異なり、感染力が強いようで、まだまだ予断は許されません。本会でも、昨年の8月頃から、しばらく休止していたサロンを再開してきておりますが、一日も早く本会の全ての事業が通常どおりに実施できることを本年は願っております。

また昨年は、本会元職員による不祥事が発生しまして、町民の皆様や本会事業にご協力をいただいている皆様をはじめ、多くの関係者の皆様に多大なるご迷惑とご心配をおかけしま

した。改めて深くお詫び申し上げます。今後は再発防止に全力を挙げて取り組むとともに、役職員一同一丸となって、失った信用の回復に努め邁進してまいりますので、なお一層のご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年は厚真町社会福祉協議会が発足してから七十年という節目の年となりますが、お陰様で今日まで皆様方の温かいご支援・ご協力により地域福祉活動や介護保険事業を中心とした福祉サービスの適切な運営と質の向上に努めてまいりました。今後も、地域住民との連携と協調のもとで「住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉」の実現を目指してまいります。

結びになりますが、本年が町民の皆様にとりまして、希望に満ちた心穏やかな一年となりますように心からご祈念申しあげ、年頭に当たっての挨拶といたします。

本年もよろしく

お願い申し上げます



会	長	大	橋	正	治		
副	会	長	加	勢	敏	和	
"			加	藤	恵	子	
理	事	中	谷	幸	保		
"			橋	場	直	人	
"			池	田	シ	ゲ	子
"			佐	藤	功		
"			中	川	登		
"			北	島	美	保	
"			箱	崎	倫	子	
"			佐	藤	秋	夫	
"			伊	東	悦	子	
"			高	橋	康	夫	
監	事	山	田	忠	男		
"			前	田	正	行	
事	務	局	長	木	戸	知	二
				ほか、職員一同			



身障者福祉協会厚真支部

ふれあい広場を開催



11月12日（金）に身障者福祉協会厚真支部では、2年振りとなる「ふれあい広場」を町総合福祉センターで開催し、会員24名が参加しました。

ふれあい広場の開催に先立ち、胆振身体障害者福祉協会会長表彰の伝達が行われ、佐々木祐子さんに賞状と記念品が手渡されました。

ミニ学習会では、地域包括支援センターの看護師による介護予防講話、フレイル予防体操を真剣に取り組んだ学習会となり、体操の後はゲームを行い楽しく過ごしました。



災害ボランティアセンター 支援に関する協定を締結

社会福祉協議会と厚真ライオンズクラブは、災害ボランティアセンター支援に関する協定を締結しました。

内容は自然災害発生時において、当会が運営する災害ボランティアセンターに対し、厚真ライオンズクラブから支援を受けるものです。当会から要請する支援としては主に、車両及び駐



車スペースの確保や物的・人的支援の提供、飲食物（炊き出し含む）などの支援となっています。

これらの協力体制の基盤をつくることにより、今後さらにタイムリーな支援体制が構築されることが期待されます。

TOPICS

令和3年度 第45回 道新ボランティア奨励賞

あつまっぷる様を受賞

本年6月に選考審査を経ての受賞となりました。贈呈式は新型コロナウイルスの影響で中止となり、社協事務所で受賞の盾を代表の高橋康夫氏へ伝達いたしました。



あつまっぷるとは、1998年に町民6人で発足されたボランティア団体です。

- 活動内容 -

- * プルタブを収集し仕分けを行い、車椅子に交換
- * 不要になったタオルなどを収集・裁断し、福祉施設等へ寄贈

子どもからお年寄りまで誰もが参加できる内容であること、「できる人ができる時にできる事を」の心で、活動を通して人と人の繋がりを深めて、地域貢献となる活動を広めていくことを目標に活動をしています。

震災後は仮設入居者へ「支援される側から支援する側へ」と声掛けをしプルタブの分別作業・牛乳パックでの座椅子づくり・布切り作業を会員と一緒に支援活動として行い、町内外施設へ寄贈をする活動をしました。

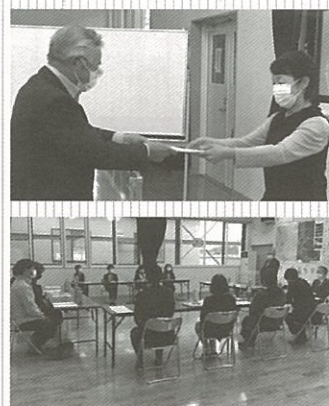
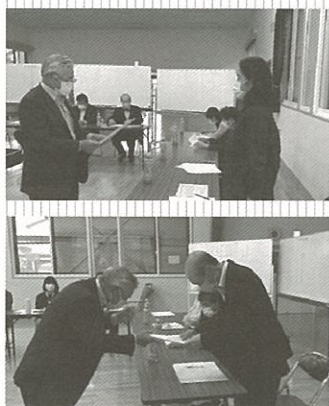
厚真町ボランティアセンター運営委員会 が再編されました

高齢になっても、身体に障害を抱えても、住み慣れた地域で自分らしく安心安全に暮らすことのできる町、こんな地域社会をつくるには支え合いの精神”お互い様”がどんな時代であっても大切で、地域福祉づくりの原点です。私たちの町「厚真」は胆振東部地震で甚大な被害を受け、全国から多くのボランティア活動者から支援を受けました。まさに困ったときは”お互い様”なのです。

ボランティアセンターは、支えてほしい人と支える人の橋渡しをする役割を担っています。このセンター機能を充実するために、このたび社会福祉協議会では、ボランティアの代表で組織するセンター運営委員会を再編いたしました。運営委員会の委員は下記の方々になりましたので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今後は、委員の意見をもとに研修をするなどしてボランティアの育成をしたり、地域の現状からボランティアとのマッチングをしていきたいと考えています。

運営委員長	高橋	康夫
副委員長	村上	朋子
副委員長	澤口	研太郎
運営委員	佐藤	秋夫
"	伊東	悦子
"	箱崎	倫子
"	馬場	君子
"	楠木	哲郎
"	高橋	卓嗣



「ボランティア活動助成金について」

ボランティア活動助成金は、地域福祉活動を実施または強化したい団体（個人）を支援して、**住民参加型の地域福祉活動を促進することを目的として助成**されるものです。

対象者は、厚真町内に拠点を置き、地域福祉の向上を目的とした活動をしている団体など、各種要件を満たす団体・個人としており、助成対象となる活動や、助成する活動費用も定められています。厚真町ボランティアセンターに個人・団体登録されていることも要件のひとつです。

* 助成対象となるボランティア活動 *

- | | |
|----------------|-----------------|
| ①健康、生きがい活動 | ②食事、レクなどの提供活動 |
| ③地域ネットワークづくり活動 | ④相談、情報提供活動 |
| ⑤学習プログラム提供活動 | ⑥その他、地域福祉に関する活動 |

助成額は、対象経費の3/4以内とし5万円を限度と定め、他機関・他団体からの助成との併用については原則不可となっております。（場合により、この限りではありません）

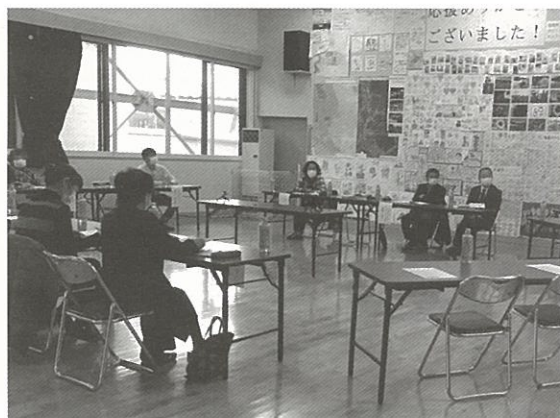
助成内容や支給手続きなど、詳しくは下記までお問い合わせください。

ボランティアに関するお問い合わせ
厚真町社会福祉協議会 TEL：0145-26-7501

令和3年度第1回ボランティア研修交流会 開催！

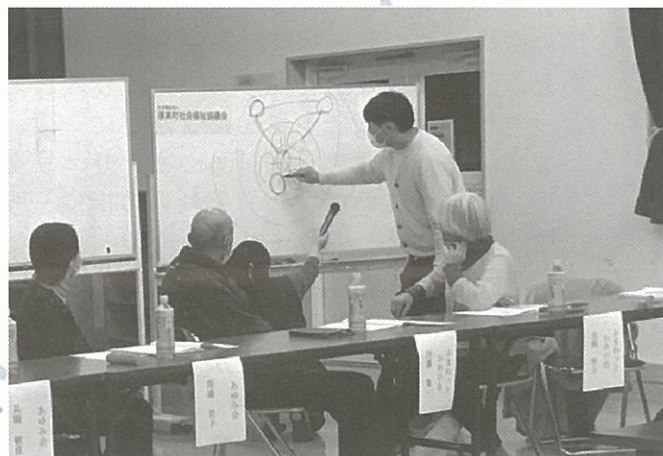
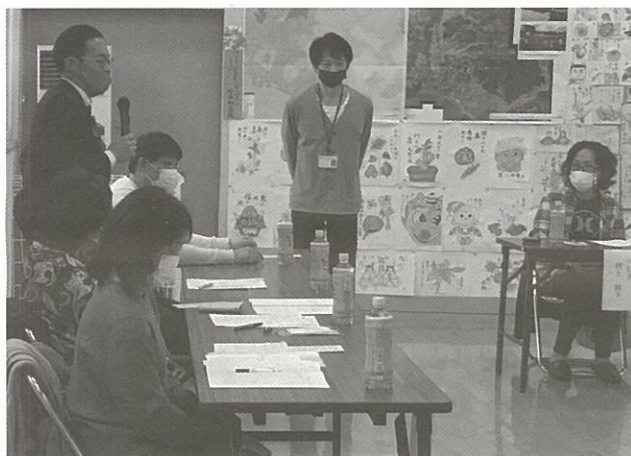
11月25日（木）に厚真児童会館集会室にて、「令和3年度第1回ボランティア研修交流会」が行われました。

この交流会のきっかけは、ボランティアセンター運営委員会の中で「町内で活躍している自分達以外のボランティアが日頃どんな活動を行っているのかを知りたい」との話から始まりました。まずは現在活動をしている人に集ってもらい素地作りをし、その後に一般のボランティアの交流を行っていくのはどうかという意見から、第1回目は限られた人数での開催となりました。



当日集まった皆さんは日頃実施している活動の発表もあったことで、多少緊張されている雰囲気ではありましたが、既に色々な活動をされている方々ということもあり、他の方の話に興味津々。発表が進むうちに少しずつ和やかで話しやすい雰囲気が出てくると、活発に質問や意見が飛び交うようになっていきました。地域での活動で実際に使っているものを資料として持ち込んで下さった団体もあり、休憩時間にはそれを囲み手に取ってみながらの交流も見られました。

最後に「この研修交流会で、わからなかった活動がわかった。相互に協力し合ってこの場が活かされるようにしていきたい」との高橋委員長からの言葉もありました。今後はこういったボランティアの活動を知る機会などから町内全体に広げ、一人でも多くの方がボランティアになれる・関われる、優しい町づくりに向けて進んでいけたらと思います。



胆振東部地震の時には、たくさんのボランティアのお世話になってきた厚真町。その姿を見て自分も、と思った方の声もたくさん聞きました。こんなこともボランティアになるんだ、という気付きを得ることもありました。地域貢献、まずは身近なところからはじめてみませんか？

厚真町社会福祉協議会ボランティアセンター
Facebook ページはこちら↓
<https://www.facebook.com/atsuvola>



えがおの家 横井 明美さん

12歳から厚真に在住。
その後は厚真で就職し結婚後現在に至る。
現在は「えがおの家」でのケアマネジャー兼施設管理者。
12年前のヘルパー教室（苫小牧市）では、実は吉田と一緒に
の教室で受講していました。

- 吉田 横井さんが介護の分野に興味を抱いたきっかけを教えてください。
- 横井 12年前に苫小牧市でホームヘルパー1級の講習を学校で受けたことかな。両親の関係もあり、後々のために家庭内で介護の知識が必要と感じたのが始まりでした。
- 吉田 なるほど、そういうきっかけだったんですね。
- 横井 とはいっても、在学中に気持ちの変化も出てきて、結局は卒業前に「えがおの家」の内定はいただいていたんです。（笑）
- 吉田 名刺を拝見しましたが、いつのまにか介護福祉士も取得していたんですね。そしてその2年後に介護支援専門員（ケアマネジャー）ですよね。同じ介護の職種でも介護福祉士とは全く業務の中身が異なりますよね。
- 横井 そうですね、在学中に講師の方が「皆さまが介護職を通じ、将来ケアマネジャーを目指す方もいれば良いですね」と話されていたことを覚えていて…そのお言葉がケアマネジャーを目指すきっかけへと繋がった部分もありますね。
- 吉田 ちなみに、「えがおの家」についてお聞かせいただきたいのですが、ほかのグループホームにはない魅力はありますか？
- 横井 広い敷地ですので入居者様の生活歴に合った、畑や花壇が豊富にあることですかね。あと、生活機能評価というものを取り入れています。医療連携を取っていただいて「あつまクリニック」の理学療法士さんに3か月に一度、利用者様の体幹機能の変化などを記録してもらっています。また、週に2回「あつまクリニック」から看護師さんに来所いただいて、体調管理などを聞き取りしていますね。それらの指標・取り組みが、ご本人は勿論のこと、ケアプランや現場で働く介護職員一人ひとりのための、適正な介護支援へと役立っています。その他としてショートステイも受け付けていますよ。
- 吉田 僕も老後は「えがおの家」という気分になってきましたよ！ところで、コロナ禍で事業や利用者様への影響はありましたか？
- 横井 以前は社外の研修などに参加しスキルアップできる環境はあったのですが、コロナ禍ではそういう状況もなくて。それ以上に利用者様が日頃から楽しみにしている交流や外出の機会を提供することができなかったことが、申し訳なく残念で仕方ありません。恒例の『えがお祭り』も2年続けて中止になってしまっていて。落ち着いたたら、以前のように屋外で行事したいところですね。
- 吉田 一日も早くと願っています。そういえば、「えがおの家」では現在職員の募集はおこなっていますか？
- 横井 町内外問わず大歓迎ですよ。無資格の方でも入社後に初任者研修受講のバックアップも整っていますので、その辺も安心して働けるのかなと思います。



Interview

掲示板

送迎ボランティア募集中

- ★ ボランティアにちょっとだけ興味のある方
- ★ 運転が好きな方
- ★ 運転ボランティアと一緒に利用者の見守りをして頂ける方
- ★ 週に1度くらいなら空いた時間に送迎のお手伝いをして頂ける方

あなたの空いた時間を少しでも 地域貢献してみませんか？

【活動内容】

地域サロン等参加者の送迎

＊車は当社協の公用車（普通車）を使用して頂きます＊

お問い合わせ先 厚真町社会福祉協議会
0145-26-7501

2021
あつまるくん×赤い羽根
共同募金ピンバッジが
完成しました。



1個500円で頒布いたします。
制作費を除いた、約300円が赤い羽根共同募金になります。
無くなり次第締め切りとさせていただきます。

お問い合わせ先
厚真町社会福祉協議会内
(厚真町共同募金委員会)
0145-26-7501

どこに相談したら

いいのかわからない・・・



お仕事や生活上の悩み・不安をお持ちの方々のための総合相談窓口です。

※相談内容の秘密は厳守しますので安心してご相談ください。

■お問い合わせ先

生活就労サポートセンターいぶり

相談者専用番号：0120-09-0783
Mail: iburi-soudan@roukyou.gr.jp

受付時間：月～金 8時30分～17時30分

住 所 室蘭市中央町 3-5-13

SK室蘭中央ビル6F

電 話 0143-83-7355

FAX 0143-83-7123

新型コロナウイルス感染症の影響による 休業や失業で生活資金でお悩みの皆さまへ

一時的な資金の貸し付け（特例貸付）

■緊急小口資金

- ・貸付金額 10～20万円
- ・据置期間 1年以内
- ・返済期間 24ヵ月以内



■総合支援資金

- ・貸付金額 単身世帯・・・月15万以内
2人以上の世帯・月20万以内
- ・貸付期間 原則3ヵ月以内
- ・据置期間 最終貸付日から1年以内
- ・返済期間 10年以内

※いずれも保証人不要・無金利となっています
お問い合わせ先

・特例貸付コールセンター
0120-32-1760

・厚真町社会福祉協議会
0145-26-7501

○北海道社会福祉協議会のHPからも内容の詳細が確認できます

寄贈



写真左よりライオンズクラブ 大捕会長
高田副会長、社会福祉協議会 大橋会長

12月1日、厚真ライオンズクラブの大捕孝吉会長と高田芳和副会長が社協事務所を訪れ、町内の福祉施設で活用してほしいとタオル500枚を大橋正治会長に手渡しました。寄贈のタオルは早速、町内の各福祉施設へ配布し、それぞれが感謝の言葉を述べられています。

厚真ライオンズクラブが福祉施設へタオル

福祉資金

砂川スミ様(豊丘)
黒澤千佳子様(新町)
下道とよ様(富野)
齋藤博之様(東京都)

合計135,000円(4件)

(令和3年9月16日~令和3年11月4日)

物品預託

厚真ライオンズクラブ様
北海道コカ・コーラボトリング(株)
エリア営業本部道南営業部様
匿名1件

ご芳名はご本人から了解をいただいた方のみ掲載しています。

地域歳末たすけあい義援金の活用について



12月30日(木)共同募金の一環として歳末たすけあい運動がスタートしました。募金については、一人暮らしの高齢者が新たな年を地域で楽しい気分を迎えることができるよう「おせち料理」を配布しました。民生委員児童委員が1軒1軒配布対象の方々のご自宅へ「おせち料理」をお届けし、受取

った方々からは感謝の言葉をいただきました。地区担当の民生委員児童委員からも「良い年をお迎えください」と温かい言葉が添えられていました。今回の歳末たすけあい運動の募金にご協力していただいた方々、配布協力していただいた民生委員児童委員の方々には改めて感謝したいと思います。



今号の一枚



寒い季節が続いておりますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。表紙の写真は冬の寒さ対策のために住宅の窓にビニールを貼る作業を写したものです。

当会で実施している歳末たすけあい事業の取り組みとして、冬季間ビニール貼りを希望するお宅へボランティアが一軒一軒訪問し実施しました。

ボランティアとして参加していただいた苫東石油備蓄株式会社の方々には当会事業へのご協力を心から感謝申し上げます。

ビニール貼りが終わった家の皆さんは、今年の冬を暖かく過ごせることかと思えます。社会福祉協議会では、個人や企業・団体問わず随時ボランティアさんを募集しています。地域貢献を一緒にしてみませんか。

(社会福祉協議会 福祉担当 吉田)

